

令和6年度 リハビリテーション学部作業療法学科  
実務経験のある教員による授業科目一覧・シラバス

九州栄養福祉大学

一覧

授業科目	担当教員	単位数	授業の概要(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
人間発達学	佐野 幹剛	2	この講義は母子保健事業において乳幼児の2次健診に携わっている教員が教授する。乳児期から老年期までの発達過程全般について概説するとともに、障害児・者や高齢者に対する発達学的評価および治療ができる知識とスキルの習得を図れるよう講義する。授業形態は講義である。
整形外科学 (学部共通科目)	河野 勤	2	この講義は、整形外科医師がリハビリテーション医学の対象となる代表的な整形外科疾患ならびに合併症に対する治療やリスク管理について講義する。また、X線やCTなどの画像診断や手術療法および後療法について講義する。
作業療法学概論	四元 孝道、青山 克実	2	作業療法とは何かについて、その歴史や原理について長年の臨床経験を有する実務家教員によるより具体的な作業療法を総合的・体系的に概説する。また、対象となる身体機能分野、高齢期分野、精神機能分野、発達課程分野の作業療法実践過程について理解を深め、作業療法の範囲や役割について考察する。加えて、医療人としてリハビリテーションにおける作業療法士の資質について検討する。
作業療法評価学	吉岡 奈々、青山 克実	2	対象者に適切な評価が行えるよう評価の基礎を学修する。評価を行うことの意味・目的、及び画像情報の利用を学修し、作業療法過程における評価の位置付けを理解する。作業療法における各領域の観察、検査、測定など評価手段の内容や各検査、測定項目の目的、意義や評価の留意点、記録の方法、得られた結果の解釈の仕方などを身体障害および精神障害領域での臨床経験を有する実務家教員から、より実践的な作業療法評価の基礎を修得する。授業形態は講義である。
精神機能作業療法評価演習	青山 克実	1	精神科病院や医療機関、通所施設等において作業療法士として実務経験のある教員が、指定教科書とサブ資料を用いて演習や発表等により実務的に授業を進めます。精神科病院や地域において、作業療法の概念的実践モデルに基づく臨床実践や研究に関する実務経験のある教員が、理論的基盤に基づく作業療法の役割や評価、治療構造について演習を通して学習します。
発達期作業療法評価演習	佐野 幹剛	1	この授業は、発達障害専門施設や地域で作業療法士として実務経験のある教員が教授する。発達期の作業療法について理解を

			<p>深めながら、子どもの心身機能や生活機能に対する発達評価について演習する。また、画像や動画による子どもの姿勢や動きを観察するとともに、治療につなげていく統合と解釈について学修する。多様化する発達障害の臨床像に適した評価法を選択し、実施する手順を教授する。また、評価結果を分析し、作業療法計画を立案できる一連の過程を演習する。授業形態は演習である。</p>
運動器疾患作業療法学	吉岡 奈々、四元 孝道	2	<p>高齢化のもと主疾患や併存疾患として運動器疾患を治療していくため、まず作業療法治療学の基本を学び、運動器系疾患の生活や役割へ影響を考慮した作業療法実践のために機能だけではなく、生活や役割や環境等へ介入を行っていく。そのため代表的な運動器疾患について、評価から作業療法介入までの流れを理解し、作業療法の目的、問題点に対する介入方法を修得する。授業形態は講義であり、整形疾患の実務経験のある教員が教示する。</p>
中枢神経疾患作業療法学	久保 拓哉	2	<p>中枢神経系疾患の背景となる中枢神経系の機能と構造を理解し、画像の見方も学ぶ。その障害の代表的なものとして、脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷や、神経変性疾患としてパーキンソン病等について、機能と活動、参加の関連性を明確に提示する。授業は長年リハビリテーション病院に勤務した実務家教員が担当し、作業療法評価、介入とその成果の検証など作業療法課程を理解し、実践できる知識と技術を修得する。</p>
職業関連支援	平澤 勉	1	<p>作業療法士として就労支援経験のある教員が、職業リハビリテーションの実際を解説し、障害を持ちながら働くことについての理解を深める。職業リハビリテーションに関する制度や支援機関、職業関連評価について説明する。就労支援における作業療法の役割を、実例を通して考察する。</p>
			合計単位数：15 単位

授業科目名	人間発達学		
担当者名	佐野 幹剛	実務家教員	○
授業コード	1200022001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この講義は母子保健事業において乳幼児の2次健診に携わっている教員が教授する。乳児期から老年期までの発達過程全般について概説するとともに、障害児・者や高齢者に対する発達学的評価および治療ができる知識とスキルの習得を図れるよう講義する。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の基本的な発達過程を理解することができるようになる。</li> <li>・障害や老化に伴う心理的・身体的影響を発達学的に捉えることができるようになる。</li> </ul>		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	リハビリテーションにおける発達学視点と意義	事前:教科書①の第1章を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイント整理を行う(90分)	
2	乳児期の発達課題と身体発達	事前:教科書①の第2章を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイント整理を行う(90分)	
3	反射・反応について	事前:教科書②の第1部を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	
4	乳児期における粗大運動の発達と臨床的応用(事例検討)	事前:教科書①の第3章を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	
5	乳児期における手の運動発達と臨床的応用	事前:教科書①の第3章(微細運動)を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	
6	発達障害を持つ子どもの理解(事例検討)	事前:脳性麻痺についてweb等で調べておく(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	
7	乳幼児期の知覚・認知機能の発達と臨床的応用(事例検討)	事前:教科書①の第4章(1~7)を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	
8	乳幼児期のことばの発達と臨床的応用	事前:教科書①の第4章(言語の発達)を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	
9	日常生活活動の発達過程	事前:食べる機能のうち口腔器官について調べておく(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	
10	乳児～学童期の特徴と発達課題(事例検討)	事前:教科書①の第5~7章を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	
11	青年期の特徴と発達課題	事前:教科書①の第8章を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	
12	成人期の特等と発達課題(事例検討)	事前:教科書①の第9章を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	
13	老年期の特徴と発達課題(事例検討)	事前:教科書①の第10章を通読する(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)	

14	発達評価の種類と概要	事前:発達評価の種類について調べておく(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)		
15	母子保健事業での作業療法士の役割(事例検討)	事前:母子保健事業について調べておく(90分) 事後:ワークノートのポイントの整理を行う(90分)		
準備学習・事後学習等についての補足説明				
授業はワークノート・教科書を中心に進めます。ワークノートに準備学修の内容、事後学修のためのポイントの整理を示しているので活用してください。ワークノートは講義中間と最終講義後の2回提出してください。				
成績評価の方法[評価項目と割合]※上段:評価項目、下段:割合(%)				
ワークノートの完成度	課題レポートの完成度	授業への取り組み	定期試験	
20%	10%	10%	60%	
使用テキスト				
書籍名	著者	出版社		
①講座 人間発達学	上田礼子	医歯薬出版		
②運動発達と反射 反射検査の手技と評価	M.R.Barnes	医歯薬出版		
参考書又は参考資料等				
乳児の発達 写真で見る0歳児 J.H.de Hass 医歯薬出版				
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]				
ワークノート、レポートは、チェック後フィードバック資料として返却します。内容不足があれば修正後に再提出してください。レポートの課題は「反射と反応」です。期限までに必ず提出してください。人間発達学は、人の運動機能や認知機能などの多角的な発達側面を概観します。作業療法アプローチの基本となるため、しっかり学習してください。				
担当教員の連絡先等				
教員 E-mail	その他			

授業科目名	整形外科学		
担当者名	河野 勤	実務家教員	○
授業コード	1200028001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この講義は、整形外科医師がリハビリテーション医学の対象となる代表的な整形外科疾患ならびに合併症に対する治療やリスク管理について講義する。また、X線やCTなどの画像診断や手術療法および後療法について講義する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	整形外科領域における症候学に基づく、基本的知識と疾患の概要について学ぶ。四肢外傷、変性疾患、炎症疾患、化膿性疾患、代謝性疾患等の治療法、特に手術療法ならびに後療法について学習する。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	運動器の基本的評価方法と基本的検査、運動器の評価と検査(河野勤)P23-42(2. 運動器の評価および検査法 A.基本的評価法 B.基本的検査 C.運動器の評価と検査)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調ベノートにまとめること。	
2	整形外科治療法前半、熱傷(吉本昌人)P44-51(3. 整形外科治療法(皮膚移植まで)P188-191(17. 熱傷)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調ベノートにまとめること。	
3	感染症や代謝内分泌疾患等(塩本喬平)P61-63、P67-70(4. 炎症性疾患 A.感染症(軟部組織・骨・関節)、C.その他感染症疾患)P75-77(5. 代謝・内分泌疾患、退行性疾患 A.代謝・内分泌疾患)P87-89(6. 先天性骨・関節疾患 C.その他)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調ベノートにまとめること。	
4	軟骨・関節の基礎と関節疾患(進悟史)P5-8(1. 整形外科基礎知識 B.軟骨の基本構造、C.関節の基本構造)P85-86(6. 先天性骨・関節疾患 B.先天性関節疾患)P63-67(4. 炎症性疾患 B.非感染症性関節疾患)P78-81(5. 代謝・内分泌疾患、退行性疾患 B.退行性疾患 2. 変形性関節症、3. 神経病性関節症、4.. 血友病性関節症	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調ベノートにまとめること。	
5	骨格筋・神経の基礎と同疾患(上森知彦)P8-19(1. 整形外科基礎知識 D.骨格筋の基本構造と機能、E.神経系の基本構造、F.骨・関節、筋・神経の病態生理)P104-109(9. 神経・筋疾患)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調ベノートにまとめること。	

6	骨の基礎と骨疾患(見明豪)P2-5(1. 整形外科基礎知識 A.骨の発生と成長)P84-85(6. 先天性骨・関節疾患 A.代表的な先天性骨疾患)P77-78(5. 代謝・内分泌疾患 B.退行性疾患 1 骨粗鬆症)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
7	循環障害と壊死性疾患、骨軟部腫瘍(前川啓)P90-103(7. 循環障害と壊死性疾患、8. 骨・軟部腫瘍)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
8	脊髄損傷(今村寿宏)P149-155(12. 脊髄損傷)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
9	整形外科治療法後半、切断及び離断(高崎実)P51-56(3. 整形外科治療法(腱の手術から))P192-199(18. 切断及び離断)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
10	骨折総論、体幹並びに上肢骨折(森達哉)P127-140(11. 骨折 A.概論-骨折とは、B.体幹の骨折、C.四肢の骨折(上肢))	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
11	下肢骨折、関節における外傷性疾患(鬼塚俊宏)P140-145(11. 骨折 C.四肢の骨折(下肢))P157-160(13. 関節における外傷性疾患)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
12	運動器の評価と検査について、ランドマークと検査手技実習(川本) P29-42(2. 運動器の評価および検査法 C.運動器の評価と検査(実習))	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
13	スポーツ障害(田代泰隆)P178-186(16. スポーツ障害)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。

14	末梢神経や腱・靭帯の外傷性疾患(花田麻須大)P162-177 (14. 末梢神経における外傷性疾患、15. 腱・靭帯における外傷性疾患)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
15	脊椎の疾患(田中宏毅) P111-122(10. 脊椎の疾患)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
準備学習・事後学習等についての補足説明		
各講義に関連する教科書ページを前もって読んでおくこと。 事後には各章最後の“復習のポイント”に記載された問いに答えたり、本末にある“セルフアセスメント”を解答したりすること。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験		
100%		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学第5版	染矢 富士子菊池 尚久	医学書院
参考書又は参考資料等		
適宜資料を配布する。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
効率よく、且つ分かりやすくする為に、できる限り基礎と臨床をつないだ講義内容としている。 よって、教科書の順番通りではないが、すべてを網羅できるように工夫してある。各講義の教科書ページに注意すること。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	質問等は、講義中に受付けます。	

授業科目名	作業療法学概論		
担当者名	四元 孝道、青山 克実	実務家教員	○
授業コード	1220065001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	作業療法とは何かについて、その歴史や原理について長年の臨床経験を有する実務家教員によるより具体的な作業療法を総合的・体系的に概説する。また、対象となる身体機能分野、高齢期分野、精神機能分野、発達課程分野の作業療法実践過程について理解を深め、作業療法の範囲や役割について考察する。加えて、医療人としてリハビリテーションにおける作業療法士の資質について検討する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法に興味を持ち、作業療法に関する知識を得るための努力ができる。</li> <li>2. 作業療法とは何かを説明できる。</li> <li>3. 「作業」とは何かを議論することができる。</li> <li>4. 作業療法の評価から介入に至る作業療法過程を説明できる。</li> <li>5. 4つの分野ごとの作業療法の役割と内容の概略を述べるができる。</li> </ol>		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション:授業の進め方、授業ファイルの作成について。作業療法とは (四元)	事前:教科書p3-13を読み作業療法の定義についてまとめておく 事後:ワークノートの整理	
2	作業療法の歴史と原理 (青山)	事前:教科書のp15-25を読み、作業療法の原理が何かを考えておく(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)	
3	リハビリテーション発祥地記念館見学 (青山)	事前:リハビリテーション発祥地記念館について調べておく(90分) 事後:見学レポート作成(90分)	
4	作業療法に関する予備知識と作業療法の実践現場(四元)	事前:教科書のp27-47を読み、作業療法に必要な知識や作業療法士がかかわる領域を理解しておく。(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)	
5	作業の分析と治療への適用(四元)	事前:教科書のp51-72を読み、作業分析とは何かを考え、作業の治療的適用を理解しておく(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)	
6	作業療法の理論(青山)	事前:教科書のp74-83を読み、業療法に関する理論の大枠を理解しておく(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)	
7	作業療法士の養成と教育(青山)	事前:教科書のp87-141を読み、作業療法士に求められる資質を理解し、その養成課程や卒前卒後教育、日本作業療法士協会について知識を深めておく(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)	
8	作業療法の実践課程(四元)	事前:教科書のp145-164を読み、作業療法の実践課程の大枠を理解しておく(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)	

9	身体機能分野における作業療法の実際(四元)	事前:教科書の p169-181 を読み、身体機能分野の具体的な作業療法を調べる(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)
10	精神機能分野における作業療法の実際(青山)	事前:教科書の p182-195 を読み、精神機能分野の具体的な作業療法を調べる(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)
11	発達過程分野における作業療法の実際(青山)	事前:教科書の p196-211 を読み、教発達過程分野の具体的な作業療法を調べる(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)
12	高齢期分野における作業療法の実際(青山)	事前:教科書の p212-227 を読み、高齢期分野の具体的な作業療法を調べる。(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)
13	社会保障制度の理解(青山)	事前:教科書の p231-241 を読み、医療保険と介護保険の違いをまとめておく。(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)
14	作業療法部門の管理運営(青山)	事前:教科書の p246-269 を読み、作業療法部門の管理運営とは何かを考えておく。(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)
15	まとめ・作業療法の現状と展望(青山)	事前:これからの作業療法、作業療法の発展について調べてくる(90分) 事後:ワークノートの整理(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

指定された、事前、事後の学習内容について予習・復習を欠かさず、可能な限り疑問点を解決すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	授業ノートの完成度	課題	小テスト
40%	20%	20%	20%

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
標準作業療法学 作業療法学概論 第4版	能藤真一 編集	医学書院

参考書又は参考資料等

作業療法全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論 日本作業療法士協会監修 杉原素子編集 協同医書出版社  
作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論 長崎重信監修 メジカルビュー社

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	作業療法評価学		
担当者名	吉岡 奈々、青山 克実	実務家教員	○
授業コード	1220096001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2単位	履修	卒業・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	対象者に適切な評価が行えるよう評価の基礎を学修する。評価を行うことの意味・目的、及び画像情報の利用を学修し、作業療法過程における評価の位置付けを理解する。作業療法における各領域の観察、検査、測定など評価手段の内容や各検査、測定項目の目的、意義や評価の留意点、記録の方法、得られた結果の解釈の仕方などを身体障害および精神障害領域での臨床経験を有する実務家教員から、より実践的な作業療法評価の基礎を修得する。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法における”評価”の意義について説明できる</li> <li>2. 作業療法実践過程を理解し評価の位置づけを説明できる</li> <li>3. 作業療法における領域共通の評価法について説明できる</li> <li>4. 作業療法における主たる領域の評価法を説明できる</li> </ol>		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	評価とは何かオリエンテーション(吉岡)	事前:指定範囲を通読しに目を通し概観する(90分) 事後:授業内容を復習し、ICFを見直しておく(90分)	
2	作業療法の過程(吉岡)	事前:指定範囲を通読しに目を通し概観する(90分) 事後:作業療法評価の概略を理解し、また作業療法課程についても併せて理解する(90分)	
3	情報収集/面接/観察(吉岡)	事前:指定範囲を通読しに目を通し概観する(90分) 事後:授業で習った情報収集、面接、察について整理する(90分)	
4	検査の基礎所見(血液所見など)および計測所見の評価について(吉岡)	事前:指定範囲を通読しに目を通し概観する(90分) 事後:講義後に配布した「振り返りシート」に取り組む(90分)	
5	活動・参加(作業[ADL/IADL])の評価(青山)	事前:教科書 p213-216 の BI、FIM、AMPS 部分を通読し、アンダーマークを引く(90分) 事後:講義後に配布した「振り返りシート」に取り組む(90分)	
6	QOL, 興味, 役割の評価(青山)	事前:指定範囲(教科書 p241-255)を通読し、要点にアンダーマークを引く(90分) 事後:講義後に配布した「振り返りシート」に取り組む(90分)	
7	CROT 演習～統合と解釈/クリニカルリーズニング(青山)	事前:教科書(p19-22)を通読し、要点にアンダーマークを引く(90分) 事後:講義後に配布した「振り返りシート」に取り組む(90分)	
8	精神機能評価(青山)	事前:教科書(p486-513)を通読し、要点にアンダーマークを引く(90分) 事後:講義後に配布した「振り返りシート」に取り組む(90分)	
9	身体機能評価(吉岡)	事前:指定範囲を通読しに目を通し概観する(90分) 事後:身体機能評価について整理する(90分)	

10	高齢期機能評価(吉岡)	事前:指定範囲を通読しに目を通し概観する(90分) 事後:高齢期の特徴を理解しその評価の概要を復習する(90分)
11	高次脳機能障害評価(吉岡)	事前:指定範囲を通読しに目を通し概観する(90分) 事後:高次脳機能障害の特徴を理解しその評価の概要を復習する(90分)
12	発達期機能評価(吉岡)	事前:指定範囲を通読しに目を通し概観する(90分) 事後:発達期機能評価について整理する(90分)
13	就労の評価(青山)	事前:教科書(p632-648)を通読し、要点にアンダーマークを引く(90分) 事後:講義後に配布した「振り返りシート」に取り組む(90分)
14	記録・報告(青山)	事前:教科書(p28-35)を通読し、要点にアンダーマークを引く(90分) 事後:「振り返りシート」に取り組む(90分)
15	評価の実際(吉岡)	事前:1-14回の授業を振り返り、再学習する(90分) 事後:評価の実際を復習し理解する(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

作業療法における評価とは何かを理解するために、評価の概略を理解します。教科書では、該当ページを示していますが、詳細については、2年生以降に具体的実施方法も含め深く学びます。その準備として教科書全般が範囲となっていますが、重要なポイントは授業中に示しますので集中して授業に参加してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	小テスト	課題	
50%	30%	20%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
標準作業療法評価 第4版	能登真一編集	医学書院

参考書又は参考資料等

小川真寛、藤本一博、京極真・編:5W1Hでわかりやすく学べる作業療法理論の教科書 メジカルビュー 2020  
藤本一博、小川真寛、京極真・編:5W1Hでわかりやすく学べる作業療法リーズニングの教科書 メジカルビュー 2022

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	精神機能作業療法評価演習		
担当者名	青山 克実	実務家教員	○
授業コード	1220099001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	精神科病院や医療機関、通所施設等において作業療法士として実務経験のある教員が、指定教科書とサブ資料を用いて演習や発表等により実務的に授業を進めます。精神科病院や地域において、作業療法の概念的実践モデルに基づく臨床実践や研究に関する実務経験のある教員が、理論的基盤に基づく作業療法の役割や評価、治療構造について演習を通して学習します。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ICF および作業療法理論に基づいてクライアントに関する疑問を生成し、その疑問に対する適切な情報収集法を選択し実施することができる。</li> <li>■ 情報収集したクライアントの情報を ICF に基づいて分類することができる。</li> <li>■ ICF に分類した情報に基づき、作業療法の理論やその他の知識を用いてクライアントの状況を概念化することができる。</li> <li>■ 作業療法で取り組む問題を焦点化できる。</li> <li>■ 作業に焦点を当てた作業療法プログラムを作成することができる。</li> </ul>		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	世界および日本における精神障害者処遇と精神医療の歴史、精神科作業療法の法的枠組み(オリジナルテキスト【p1-22】)	事前:オリジナルテキスト【p1-22】を通読する(45分) 事後:振り返りシートを学習する(45分)	
2	精神科作業療法のマストアイテム①精神科リハビリテーションにおける精神科作業療法の位置付けと理論的基盤、治療構造論 (オリジナルテキスト【p76-87, 120-121, 133-140】)	事前:オリジナルテキスト【p76-87, 120-121, 133-140】を通読する(45分) 事後:振り返りシートを学習する(45分)	
3	精神科作業療法のマストアイテム②事例を通した理論的基盤の活用 (オリジナルテキスト【p76-87, 120-121, 133-140】)	事前:オリジナルテキスト【p76-87, 120-121, 133-140】を通読する(45分) 事後:振り返りシートを学習する(45分)	
4	精神疾患の成り立ちと障害構造、回復過程モデルと作業療法技術(急性～地域生活まで) (オリジナルテキスト【p59-75, 107-109】)	事前:オリジナルテキスト【p59-75, 107-109】を通読する(45分) 事後:振り返りシートを学習する(45分)	
5	精神科作業療法評価の実践①～精神科作業療法と評価のプロセス、手段・方法、疑問の生成 (オリジナルテキスト【p177-185, 192-197】)	事前:オリジナルテキスト【p177-185, 192-197】を通読する(45分) 事後:振り返りシートを学習する(45分)	
6	精神科作業療法評価の実践②作業療法の導入～他部門からの情報収集とインテーク面接 (オリジナルテキスト【p198-212】)	事前:オリジナルテキスト【p198-212】を通読する(45分) 事後:振り返りシートを学習する(45分)	
7	インテークと SMSF 演習～	事前:インテーク面接の準備・練習をする(45分) 事後:「作業療法インテーク面接記録 ver.3-2」を作成する(45分)	

8	精神科作業療法評価の実践③～包括的評価;作業に関する自己評価改定版～ (オリジナルテキスト【p216-218】)	事前:オリジナルテキスト【p216-218】を通読する(45分) 事後:自分の OSA の結果を概観し、必要な行動計画を立てる(45分)
9	OSA 演習【青山】	事前:ペア演習の相手の OSA を通して面接演習の準備をする(45分) 事後:OSA を通してペア相手の作業療法の行動計画を立てる(45分)
10	精神科作業療法評価の実践⑤～集団における治療的態度と対人交流技能評価;ACIS を通して(オリジナルテキスト【p227-228】)	事前:オリジナルテキスト【p227-228】を通読する(45分) 事後:ACIS の技能項目を確認する(45分)
11	ACIS 評価演習【青山】	事前:ACIS の技能項目を確認する(45分) 事後:LIVE 評価した事例の ACIS 結果のまとめ・記述(45分)
12	精神科作業療法評価の実践⑥～心身機能(精神・認知機能)障害と個人・環境因子の評価;BACS-J 演習 (オリジナルテキスト【p49-57, 229-231】)	事前:オリジナルテキスト【p49-57, 229-231】を通読する(45分) 事後:LIVE 評価した事例の BACS-J の結果のまとめ・記述(45分)
13	精神科作業療法評価の実践⑦～非構成的評価;4 条件メソッドと観察のポイント (オリジナルテキスト【p198-202】)	事前:オリジナルテキスト【p198-202】を通読する(45分) 事後:振り返りシートを学習する(45分)
14	非構成的評価演習	事前:オリジナルテキスト【p198-202】を通読する(45分) 事後:振り返りシートを学習する(45分)
15	精神科作業療法評価の実践⑧～リーズニング;概念化と作業療法プログラムの立案～① (オリジナルテキスト【p235-249】)	事前:オリジナルテキスト【p235-249】を通読する(45分) 事後:定期試験範囲の整理と振り返りシートのファイリング(45分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- 1 年次 基礎作業演習 I で学んだ作業科学や人間作業モデルなどの作業療法理論が前提となります。MOHO の構成概念とその内容、人間作業のダイナミクス等について復習しておいてください。
- 講義資料および振り返りシートは、講義順にファイリングしておくこと。
- 面接や観察の評価演習・発表は、ソーシャルディスタンスによる教室配列等を工夫する予定です。
- 作業療法の理論に基づくクライアントのとらえ方や思考過程を養う意識をもって臨んでください。
- 講義後は、演習で使用した資料や振り返りシートをポートフォリオとして作成してください。  
作成の際はタックシールインデックスを用いて、時系列にファイリングすること。
- ポートフォリオは定期試験時に提出してください。  
(成績評価の対象となります、ファイリングが整理されているかどうかも含めて評価します)。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

ポートフォリオ	課題レポート・小テスト	定期試験	
5%	25%	70%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
オリジナルテキスト「精神科作業療法 第 9 版」	青山克実	非売品

参考書又は参考資料等	
南庄一郎、木納潤一・編:作業に焦点を当てた精神科作業療法 株式会社シービーアール、2024	
山田孝・編著:事例でわかる人間作業モデル 共同医書出版、2015	
齋藤祐樹・編集:作業で語る事例報告 作業療法レジメの書きかた・考え方 医学書院 2014	
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]	
担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	発達期作業療法評価演習		
担当者名	佐野 幹剛	実務家教員	○
授業コード	1220101001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この授業は、発達障害専門施設や地域で作業療法士として実務経験のある教員が教授する。発達期の作業療法について理解を深めながら、子どもの心身機能や生活機能に対する発達評価について演習する。また、画像や動画による子どもの姿勢や動きを観察するとともに、治療につなげていく統合と解釈について学修する。多様化する発達障害の臨床像に適した評価法を選択し、実施する手順を教授する。また、評価結果を分析し、作業療法計画を立案できる一連の過程を演習する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害の作業療法で用いる評価の種類を理解することができるようになる。</li> <li>・発達障害を持つ子どもの臨床像を運動学的解剖学的に評価する方法を習得する。</li> <li>・発達障害に対する標準的な評価の具体的な内容を理解し手順を習得する。</li> </ul>		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	発達障害に対する作業療法評価の意義	事前:発達障害の定義について調べる(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
2	発達障害の概要と発達スクリーニング検査の実際	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
3	姿勢分析の基本を学ぶ	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
4	床上動作分析の基本と立ち上がり動作	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
5	床上動作分析の実際:寝返りと四つ這い移動	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
6	脳性麻痺の神経学的検査	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
7	日常生活活動と社会生活の評価演習	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
8	食べる機能の障害とその評価演習	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
9	発達障害に対する認知発達検査演習	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
10	In-Hand Manipulation Skills の発達と評価演習	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
11	神経学的微細兆候検査の意義と演習	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
12	神経心理学的発達検査の種類と実際	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	
13	神経発達学的評価演習	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)	

14	事例検討:脳性麻痺	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)		
15	事例検討:発達障害	事前:ワークノートのキーワード調べの実施(20分) 事後:ワークノートの整理と課題の実施(25分)		
準備学習・事後学習等についての補足説明				
ワークノートを期間中2回提出してください。確認後に返却します。1回目:7回終了後2回目:定期試験終了後				
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)				
ワークノートの完成度	分析課題の完成度	定期試験	授業への取り組み	
20%	20%	50%	10%	
使用テキスト				
書籍名	著者	出版社		
使用しない(都度資料を配布)				
参考書又は参考資料等				
作業療法評価学 生田宗博 協同医書				
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕				
担当教員の連絡先等				
教員 E-mail	その他			

授業科目名	運動器疾患作業療法学		
担当者名	吉岡 奈々、四元 孝道	実務家教員	○
授業コード	1220103001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・作業療法士必修
ナンバリング	DP4-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	高齢化のもと主疾患や併存疾患として運動器疾患を治療していくため、まず作業療法治療学の基本を学び、運動器系疾患の生活や役割へ影響を考慮した作業療法実践のために機能だけではなく、生活や役割や環境等へ介入を行っていく。そのため代表的な運動器疾患について、評価から作業療法介入までの流れを理解し、作業療法の目的、問題点に対する介入方法を修得する。授業形態は講義であり、整形疾患の実務経験のある教員が教示する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.作業療法を実施できるようになるために治療原理を理解し修得する。</li> <li>2.運動器疾患の分類および特徴を説明できる。</li> <li>3.運動器疾患の医学的治療と作業療法の関連について説明できる。</li> <li>4.運動器疾患の回復に応じた作業療法目標を設定し、作業療法プログラムを計画できる。</li> </ol>		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	作業療法における関節可動域・筋力の維持・改善(吉岡)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
2	作業療法における筋緊張の維持・改善(四元)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
3	作業療法における感覚・知覚の維持・改善(四元)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
4	作業療法における物理療法(吉岡)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
5	骨折(上肢)(吉岡)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
6	骨折(下肢)(吉岡)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
7	加齢性関節疾患(肩関節周囲炎など)(吉岡)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
8	腱板損傷(吉岡)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
9	腱損傷(屈筋腱・伸筋腱)(吉岡)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
10	熱傷(吉岡)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
11	運動器疾患のまとめ ―症例を通じて―(吉岡)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
12	関節リウマチ(1)(四元)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
13	関節リウマチ(2)(四元)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	

14	上肢の末梢神経損傷(1)(四元)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
15	上肢の末梢神経損傷(2)(四元)	事前:教科書該当ページを通読し内容を理解する(90分) 事後:重要なポイントを復習し小テストに備える(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
準備学修は、指定した教科書の範囲または配布資料を事前に読んで理解を深めておく。授業で扱う疾患の病態や基本的な治療について、整形外科学の授業も参考にしながら予習しておくこと。事後学修は、教科書やノートで復習し、小テストに備える。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	レポート・課題		
60%	40%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準作業療法学身体機能作業療法学第4版	山口 昇、玉垣 努	医学書院	
参考書又は参考資料等			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	中枢神経疾患作業療法学		
担当者名	久保 拓哉	実務家教員	○
授業コード	1220104001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・作業療法士必修
ナンバリング	DP4-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	中枢神経系疾患の背景となる中枢神経系の機能と構造を理解し、画像の見方も学ぶ。その障害の代表的なものとして、脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷や、神経変性疾患としてパーキンソン病等について、機能と活動、参加の関連性を明確に提示する。授業は長年リハビリテーション病院に勤務した実務家教員が担当し、作業療法評価、介入とその成果の検証など作業療法課程を理解し、実践できる知識と技術を修得する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経系の機能と構造を理解できる。</li> <li>2. 中枢神経系障害の代表的疾患について、病態とその作業療法課程を理解できる。</li> <li>3. 各中枢神経系疾患の作業療法評価と介入の実際を理解し、説明できる。</li> </ol>		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション中枢神経疾患とは何か 中枢神経疾患に対する介入概念の理解	事前:中枢神経について復習をしておく。(90分) 事後:中枢神経疾患について理解を深める。(90分)	
2	脳血管障害① p162～p171	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
3	脳血管障害② p171～p178	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
4	脳血管障害③ p178～p183	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
5	頭部外傷① p185～p188	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
6	頭部外傷② p189～p190	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
7	脊髄損傷① p191～p200	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
8	脊髄損傷② p200～p209	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
9	脊髄損傷③ p209～p212	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
10	パーキンソン病① p352～p355	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
11	パーキンソン病② p355～p358	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
12	脊髄小脳変性症① p360～p362	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	
13	脊髄小脳変性症② p362～p366	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)	

14	筋萎縮性側索硬化症① p367～p369	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)
15	筋萎縮性側索硬化症② p369～p373	事前:教科書該当ページを通読し理解を深める。(90分) 事後:該当ページに対応した疾患別ノートを作成する。(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
授業前に、教科書の指定ページを通読し理解を深めておく。また、疾患別に作業療法過程をまとめ、疾患ノートを作成し、各疾患の講義終了後に提出をする。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験	疾患ノートの完成度	
60%	40%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学第3版	山口 昇・玉垣 努編集	医学書院
参考書又は参考資料等		
作業療法全書 改訂第3版 第4巻 身体障害 日本作業療法士協会監修 菅原洋子編集 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 長崎重信監修 メジカルビュー社		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	職業関連支援		
担当者名	平澤 勉	実務家教員	○
授業コード	1220062001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	作業療法士として就労支援経験のある教員が、職業リハビリテーションの実際を解説し、障害を持ちながら働くことについての理解を深める。職業リハビリテーションに関する制度や支援機関、職業関連評価について説明する。就労支援における作業療法の役割を、実例を通して考察する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業リハビリテーションの動向、支援制度について説明することができる。</li> <li>2. 就労に関する評価について説明することができる。</li> <li>3. 疾患や障害像に応じた就労支援のポイントを説明することができる。</li> </ol>		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション, 障害者の雇用状況 4/17 水	事前:障害者雇用について調べる(20分) 小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	
2	障害者の就労支援に関わる制度・関連諸機関 4/24 水	事前:小テストに備えて, 前回の内容を復習する(20分) 事後:小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	
3	就労支援現場による特別講義 5/1 水	事後:特別講義を受けてのレポート作成(45分)	
4	障害者雇用現場の見学実習 5/8 水	事前:見学施設について予習する(20分) 事後:見学を受けてのレポート作成(25分)	
5	特別講義・工場見学を受けての演習 5/15 水	事前:特別講義・工場見学を受けてのレポート作成(20分) 事後:学んだことを書き出す(25分)	
6	「働く」に必要な個人の評価 5/22 水	事前:小テストに備えて, 前回の内容を復習する(20分) 事後:小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	
7	各種評価法・検査法(VPI, GATB, ワークサンプル法など) 5/29 水	事前:小テストに備えて, 前回の内容を復習する(20分) 事後:小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	
8	環境の評価, マッチング 6/5 水	事前:小テストに備えて, 前回の内容を復習する(20分) 事後:小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	
9	就労支援の実際① 身体障害(脳卒中, 脊髄損傷) 6/12 水	事前:身体障害領域の作業療法を復習する(20分) 事後:小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	
10	就労支援の実際② 高次脳機能障害 6/19 水	事前:小テストに備えて, 前回の内容を復習する(20分) 事後:小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	
11	就労支援の実際④ リワーク支援 6/26 水	事前:小テストに備えて, 前回の内容を復習する(20分) 事後:小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	
12	就労支援の実際⑤ 精神障害 7/3 水	事前:小テストに備えて, 前回の内容を復習する(20分) 事後:小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	
13	就労支援の実際⑥ 知的障害 7/10 水	事前:小テストに備えて, 前回の内容を復習する(20分) 事後:小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	
14	就労支援の実際⑦ 発達障害 7/17 水	事前:小テストに備えて, 前回の内容を復習する(20分) 事後:小テストに備えて, 学んだことを整理する(25分)	

1 5	「働く」について演習 7/24 水	事前:小テストに備えて, 前回の内容を復習する(20 分) 事後:学んだことを書き出す(25 分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
障害者雇用現場の見学後と特別講義後にレポートを作成します。 レポートは学んだことの記載と、興味をもったことについての調べ学習を含みます。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
小テスト	課題		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない(都度資料を配布)			
参考書又は参考資料等			
適宜資料を配布する			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		
平澤:hirasawa@knwu.ac.jp			

